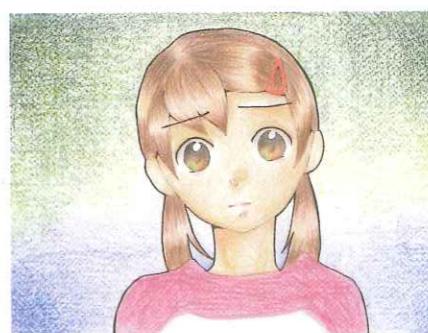


ありがとうの手がみ

みほの学校では、七月になるとみんなでこうれいしゃのしせつにいっています。そして、コマやおりがみであそんだり、手じなをしたりします。なぞなぞ、クイズなど、グループごとにじゅんびをしていき、こうれいしゃとこうりゆうします。

みほは、そのはなしを先生からきいて、ちょっとしんぱいになりました。（はじめてあう人になんてはなしかければいいのかなあ。）



みほは、けんたがいっててくれたとおり、かみしばいをゆつくりと大きなこえでよんでもみました。おじいさんやおばあさんのほうをそつと見たら、にこにこうなずいてきいているのが見えました。おわりのじかんがきました。おわりしたら、一人のおばあさんがちかくによつてきました。

そのおばあさんは、あく手をしようとみほに手を出してきました。みほにこにこしながら、手を出しました。みほもにこにこしながら、手を出しました。おばあさんは、あたたかい手でギュッとぎつてくれました。みほは、こころの中まであたたかくなりました。



みほたちのグループは、かみしばいをよむことにしました。

「よいよ、こうれいしゃのしせつにい日です。みほは、あさから、むねがドキドキしていました。そこには、車いすにのつたかたやベッドでねているかた、耳がふじゆうなかたなど、いろいろなかたがいました。

グループにわかれ、かみしばいをよむじかんがきました。みほは、ふあんでこえが小さくなつてしましました。だから、おじいさんやおばあさんのかおを見ることができませんでした。すると、けんたがみほの耳もとでさやきました。

「大きなこえでゆつくりとよんだほうがいいよ。」

しばらくして、学校にあく手をしたおばあさんから手がみがとどきました。

先日は、わたしたちのところにきてください。ありがとうございました。
みなんさんといっしょにあそべて、とてもたのしいひとときをすごせました。
なみだが出来るほどうれしかったです。

その手がみは、一文字一文字ふるえた字でていねいに大きく書いてありました。

みほは、あのときのあたたかいあく手をおもい出しました。こんどあいにいくときには、なにをしようかとかんがえはじめました。